

# 誠幸会 第2ステージ

～私たちの挑戦～

令和2年6月13日  
社会福祉法人 誠幸会

## ～ステージプランの策定について～

今日、日本の社会福祉を取り巻く環境変化は大きい。そのうねりは一層大きくなることが予想され、この変化はピンチとチャンスにあふれている。この経済社会情勢・政策動向を見通し、現状をつぶさに踏まえたうえ、現状の課題解決と将来の布石を打っていく必要がある。

そこで、誠幸会としては、これまで蓄えてきた知見・体力を活かし、量的拡大と質的進化の両面にわたり、様々な取り組みを行うこととしている。

これを、誠幸会第2ステージと位置付け、一致団結・使命感を持って取り組むこととしたい。そのためにも、多岐にわたる内容の全体像を明らかにし、誠幸会の近未来の夢を共有するために、ステージプランを作成することとした。

このステージプランは、関わる者の様々な考えや思いを束ねながら、すなわち“異志統一”の結果である。そして、ステージプランは全体のフレームワークであり、一つ一つを具体化していく必要がある。そのため、活発な議論をもとに“異志統一”しながら進めていくことが引き続き大切である。「異志統一」は、令和2年理事長メッセージ

### 令和元年 新春 理事長メッセージ

第2ステージへ

一致団結！

使命感を持って前に進んでいこう。

### 理事長の想い



このステージプランを取りまとめようとしている今、世界は新型コロナ渦のただ中であり、地球温暖化によってロシアのシベリア地方では10万年に一度という高温に見舞われています。平均気温が例年より10度も高く永久凍土（ツンドラ）の溶解が起こり、森林火災も発生、建物の崩壊が始まったといわれています。シベリアのメルトダウン（溶解）は日本もはじめ地球全体に影響を与えていくのではないのでしょうか。

マンモス、ライオンやクマの古代生物の死骸が見つかったという。「ツンドラに閉じ込められていた、今までにない感染症ウィルス（コロナを含め）がますますひろがっていくのではないか？」と研究者は心配しているとのことです。

時の流れは日々変化しさらに厳しい未来を予見しなければなりません。社会福祉という仕事においても同様です。超高齢化・人材不足、介護保険をはじめ財政の限界など、さらには長年の「金属疲労」であちこちに亀裂が生じるように組織にも長年の「制度疲労」が生じてなりません。失敗しても次があるのだと思える法人作り・組織作りが必要なのではないか、決して甘やかす環境ではなく、新たなチャレンジができる環境・土台作りが新たなステージプランなのです。

そこで、時々の課題に怯むことなく取り組んだ結果、「誠幸会 第2ステージ」は徐々に形づくられてまいりました。それを組織全体の共通意識とするため、平成31年1月、「誠幸会 第2ステージ」と命名したものです。さらにこれを体系的に整理し直したのが、このステージプランです。

ステージプランの内容は、高齢・障害・保育の福祉3分野を中心に、上記の地球環境や感染症対策、さらに人材・IT、健康・食など広範に及んでいます。これにより、誠幸会の基本理念に掲げる

「だれもが笑顔で暮らせる社会の実現」に貢献してまいります。



誠幸会 理事長 鈴木一誠

## I 前文

- 1 ステージプランの必要性と全体像
- 2 法人の目指す姿・夢 ～ ブランディング

## II 共通事項

- 1 財務の見通しとマネジメント
- 2 人材の見通しとマネジメント
- 3 施設の見通しとマネジメント
- 4 全体スケジュール

## III 個別事業

### 1 量的拡大

#### (1) 介護

- ア 特別養護老人ホーム泉の郷 日野南
- イ 仙石原グループホーム

#### (2) 障害

- ア 新松風学園（仮称）
- イ カフェぱとりあ（就労継続支援B型）

#### (3) 保育

- ア 企業主導型保育所かみいいだ

#### (4) その他

- ア 岡津地域ケアプラザ
- イ 新ステージビル

### 2 質的進化

#### (1) 人材戦略

#### (2) IT戦略

#### (3) その他

#### (4) 健康戦略

#### (5) 食の戦略

#### (6) 環境戦略

### 3 分野別事業の新規・既存事業の連動

### 4 各分野事業の連携

## IV リスクの想定（追記）

1 ステージプランの必要性と全体像

経済社会情勢

- 1 超高齢化
- 2 超人材不足
- 3 財政の限界、介護・医療保険の限界

政策動向

- 1 福祉が成長・雇用エンジン  
 ➡福祉の生産性（IT、マネジメント、経営統合）
- 2 高齢：医療→介護、施設→在宅、地域包括ケア
- 3 障害：就労サポート、重度化高齢化&地域移行、
- 4 子育て：子育ての社会化

誠幸会の取組

量的拡大

A介護

- ・日野南特養（ユニットケア・地域交流、緑・環境等）
- ・仙石 GH（2ユニットで効率UP）

B障害

- ・新松風学園（仮称）（重度者支援、地域移行促進）
- ・カフェぱとりあ（中軽度就労支援、交流の場）

C保育

- ・企業主導保育園かみいいだ（人材確保の切り札）

Dその他

- ・岡津 CP（急高齢化の中川方面～地域包括ケアの拠点）
- ・新ステージビル  
 （3部門同居、第2ステージのシンボル）

質的進化

A 人材戦略

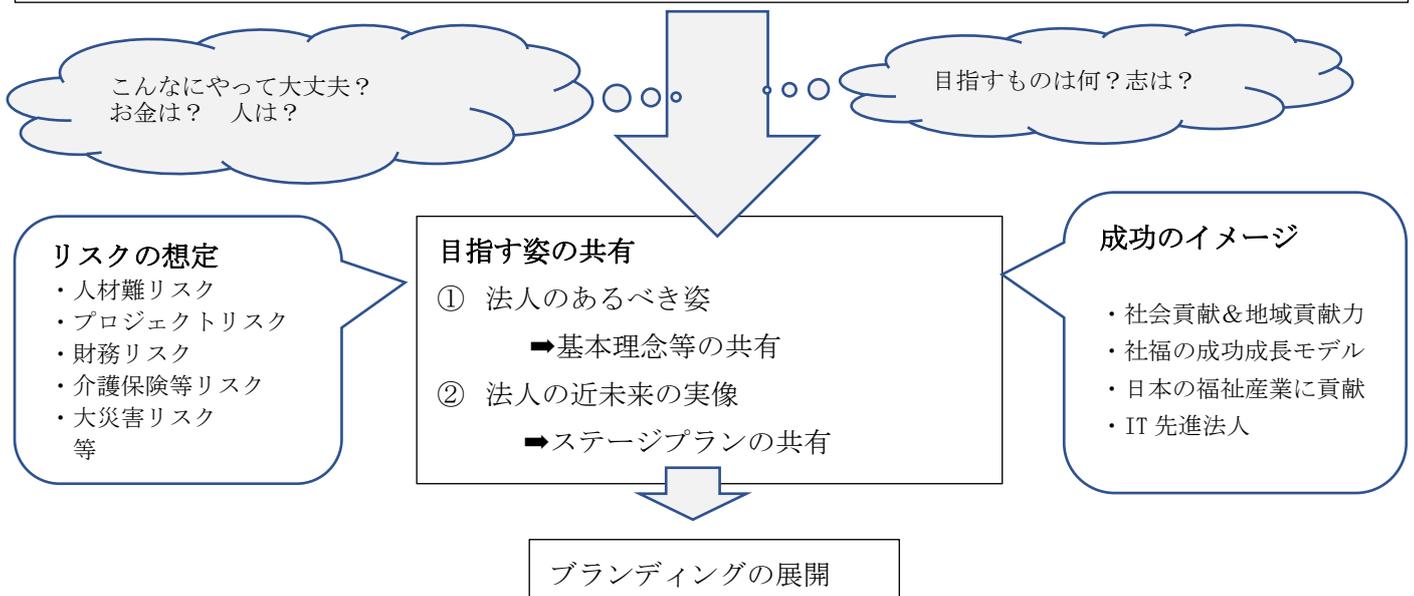
- ・人材育成（キャリアパス、研修資格制度等）
- ・新規採用（新卒、中途等多様なチャンネルで）

B IT戦略

- ・内部IT化（見守り・記録・人事経理等、生産性向上）
- ・外部向けWEB（顧客・採用で発信）

C その他

- ・健康戦略
- ・食の戦略
- ・環境戦略



## 2 法人の目指す姿

ステージプランは、第2ステージの量的・質的な具体の取組を示す。一方、「法人の目指す姿」はステージプランの数年間を超えて、法人・職員の理念・行動の在り様を示すもので、基本理念・基本方針・行動指針からなる。

今回新たなステージを迎え、これまでの歩みを振り返りつつ、基本理念等を再構築したものです。

### ○基本理念

#### ひたむきに「幸せ」の「和」をひろげ、誰もが笑顔で暮らせる社会をつくる

わたしたち誠幸会は、総合福祉法人として幅広いサービスを提供し、地域で暮らす一人ひとりの笑顔のために、ひたむきに努力を続けてきました。社会のあり方が大きく変わろうとする今、誰もが幸せを感じることでできる地域を築いていくために、私たちは変化を恐れずに、挑戦を続けていきます。誠幸会で働く仲間それぞれのぶれない意思と果敢な挑戦で、たくさんの笑顔が生まれ、つながり、幸せがひろがる社会づくりに努めてまいります。そんな想いを実現することが、わたしたちの願いです。

### ○基本方針

#### ・誰もが「幸せ」を感じられる地域づくり

地域で暮らす様々な人たちの声に耳を傾け、よりよい地域づくりに貢献します。地域や事業所ごとの特性や強みを活かしながら、地域の人たちとも力を合わせ、「誠幸会があってよかった」と多くの人に思ってもらえるような取組を広げていきます。

#### ・利用者一人ひとりの「幸せ」の追求

これまでもずっと大切にしてきたように、利用者一人ひとりの幸せの実現に努力します。利用者それぞれの大切にしたいことやニーズを実現していくことに、職員が全力になれる環境を整えることで、幸せを感じてもらえる質の高いサービスを追求します。

#### ・職員が「幸せ」に働くことのできる職場づくり

職員が働きやすく、自分自身や仲間の幸せを実感できる環境を整えることが、かかわる全ての人の幸せを考え、実現するための出発点になります。わたしたちは、職員一人ひとりが「誠幸会で働いていてよかった」と思えるような職場を実現していきます。

### ○行動規範

私たちは、礼節と挨拶を大切にします。

私たちは、かかわる全ての人の権利と笑顔を大切にします。

私たちは、自らを律し、言動をただす姿勢を大切にします。

私たちは、環境に配慮し、物を大切にします。

私たちは、効率とコンプライアンスを大切にします。

私たちは、自ら学ぶ姿勢を大切にし、新しいものを生み出します。

#### (参考) ブランディングの展開

これからの厳しい競争環境の中で、「お客様に選ばれ」「人材を獲得し」「職員が自信と誇りをもって働く」ことが必要です。これからは、社会福祉法人としても市場を意識することが求められます。

そこで、誠幸会がどう受け取られるかを意識しながら、自己満足に陥ることなく、上記の「法人のあるべき姿」や「ステージプラン」を誠幸会ブランドとして発信していくことが必要です。

## 1 財務の見通しとマネジメント

第2ステージ期間中は、量的拡大として複数の建設事業が連続的に行われる。この財務負担をどのようにマネジメントしていくのが重要である。

### (1) 第2ステージ開始前の財務状況

20年以上の着実な経営により、自己資本比率 89.8%、現預金 1,186,628 千円と十分な投資余力があった。

一方、前文の経済社会情勢・政策動向にある通り、福祉産業への期待は高い。そこで誠幸会としても役割を果たすべく、第2ステージの取り組みを開始した。

#### 貸借対照表概要 (H31年3月時点)

総資産額 5,209,530 千円	負債 533,002 千円
	純資産 4,676,528 千円

### (2) 事業の財務マネジメント

以下の点に留意し、投資額の適正化に努める。

#### ア 現保有土地建物の高度利用

仙石原GHは法人保有物件であり、運営効率を高めるため2ユニットに増強する。この際、現建物の特長を生かし、過度のリフォーム投資とならないよう工夫する。

#### イ 土地投資の適正化

新規事業に当たり、土地取得でなく借地方式とする。特に行政公募で選考されることで有利な条件となる。(新特養は、国有地で割引制度や前払い補助金がある。新松風学園(仮称)は、市有地で無償貸与となる。)

#### ウ 建設投資の適正化

(ア) 国・県・市の各種補助金を情報を集め、可能な限り獲得する。

(新特養建設補助等、新松風建設補助等、仙石原GH補助金、企業主導型保育所補助など基本的なもの。さらに太陽光発電・ZEB補助など環境系の補助にも取り組む。これらは事後のエネルギー費用低減にも効果がある)

(ウ) コスト意識の徹底

費用対効果を踏まえ無駄なコストを極力削減する。この際外部の情報も必要により活用する。設計段階から、事業採算性をふまえつつ検討を進める。

## 3 第2ステージ終了時の財務の見込み

(1) 投資額 (単位; 百万円) ④現時点の想定値で今後変更することがある。

	投資額	補助金	借入金	自己資金
GH 仙石原	78	42		36
新ステージビル	312	136		176
特養ホーム日野南	2,014	937	1,077	
新松風学園	1,006	803		203
合計	3,410	1,918	1,077	415

#### 読取り

- ① 投資額 34.1 億円の 56%は補助金 19.18 億円で賄われている。
- ② 法人持出し額 14.92 億円。自己資金主体でも借入金主体でも対応可のであるが、財務上の安全性を考慮し、長期低利固定の公的資金借入を中心とした。

注、新特養・新松風の投資額は、初期運転資金も含む。

### (2) 財務の見込み (2024年3月時点)

近年の資金収支差額(特に事業活動資金収支差額(本業の稼ぐ力(≒営業利益))が維持されれば、第2ステージ期間内(2018~23年度の6年間)の資金収支差額合計と投資額は概ねバランスすることとなる。これにより、財務の健全性は維持される。介護保険報酬改定・競争環境激化などの中で、毎年の利益確保こそが重要であると言える。

なお、2024年度以降、各事業が適切な運営により、着実な収益を生むことで資金収支差額の上乗せが期待される。これにより安定的かつ着実な成長の財務基盤の形成をめざす。

近年の事業活動資金収支差額
平成29年度 286,824
平成30年度 247,164
平成31年度 262,642 千円

法人持出し額 14.92 億円



期間内収益力 15 億円(想定)  
(≒上記差額平均 2.5 億×6年)

## 2 人材の見通しとマネジメント

### (1) 人材確保の見通し

今日の人材難の中で、第2ステージを着実に進めるうえで人材獲得が最大のカギとなる。

以下の表のように、多数多様な人材が必要となる。

### (2) 人員確保に向けてのマネジメント

#### ア 多様な雇用形態の活用

ワークライフバランスが進む中で、フルタイムの正規職員の雇用は、益々難しくなっていく。

- ・週1日でも勤務できる職員であれば雇用していく。
- ・外国人の雇用形態が多様化している中で、留学生や特定技能などを取り入れて確保していく。
- ・施設に身近な地域での雇用確保も力を入れ、地域貢献に一助としていく。

#### イ キャリアパスの充実

新卒や中途雇用となった職員の経験や年齢、働き方などに見合ったキャリアパスができるよう、キャリアシートなどにより、自分の成長が実感できるように取り組んでいく。

また、人事考課や評価制度とあいまって、やりがいのある職場づくりに努めていく。

#### ウ 資格取得等の支援

介護職員初任者研修や実務者研修、主任介護専門員研修などの受講は、本人負担なしの無料とするなど、ステップアップに向けた支援を積極的に実施していく。

### 【参考データ】 第2ステージの新規・拡充施設で必要職員数 (正規職員、パート職員を含む)

～これらは現時点の想定で、今後精査し数字が変更することがある～

施設名	施設長 管理職	介護職員	生活支 援員	保育士	その他	計
岡津地域ケアプラザ	1	1			福祉士、ケアマネ、保健師等	9 1
企業主導保育園 かみいいだ	1			12	事務、栄養士、調理	4 17
新特養日野南	2	48	12		NS、相談員、ケアマネ等	21 83
新松風学園 (仮称)	5		30		SW、NS、事務等	8 43
仙石原 グループホーム		5				5
合 計	9	54	42	12		42 154

### 3 施設の見通しとマネジメント

#### (1) 趣旨

- ・誠幸会は、発足 24 年を経過し、現在 28 事業所で、建築の耐用年数はまだまだあるが、建築部位によっては耐用年数を超えているものもある。
- ・第 2 ステージで、さらに新規事業所が拡大するとともに、また既存施設の老朽化が進む。
- ・今後の点検・保守・更新等に当たっては、予防保全・事後保全を効果的に組み合わせ、ライフサイクルコスト (LCC) の最小化に努める必要がある。また、これからは福祉サービスも顧客等から選ばれる時代であることも踏まえ、顧客満足も考慮する必要がある。
- ・このため、カネ・ヒトと併せたモノのマネジメント、いわゆるファシリティマネジメント (FM) に取り組む必要がある。

#### (2) 現状把握

現状の施設（建築・機械設備・電気設備等）の実態を把握する必要がある。そこで今後、各部署の建築について所有の分類から修繕履歴や耐用年数等に関する調査を行う。

#### (3) モノの見通し（第 2 ステージでできる施設も含めて）

##### ア 建物保有施設：

- + 仙石原 2 ユニット (385 m<sup>2</sup>)                      cf 全体 680 m<sup>2</sup> (平成 15 年改修)
- + 新ステージビル (715 m<sup>2</sup>)
- + 日野南特養 (4909 m<sup>2</sup>)
- + 新松風学園 (実施設計中)

##### イ 借り上げ施設

- + 新規増加なし

##### ウ 指定管理施設

- + 岡津ケアプラザ

#### (4) 今後の取組

##### ア 新規施設のマネジメント

第 2 ステージの結果、新規の建築保有が大きく増える。

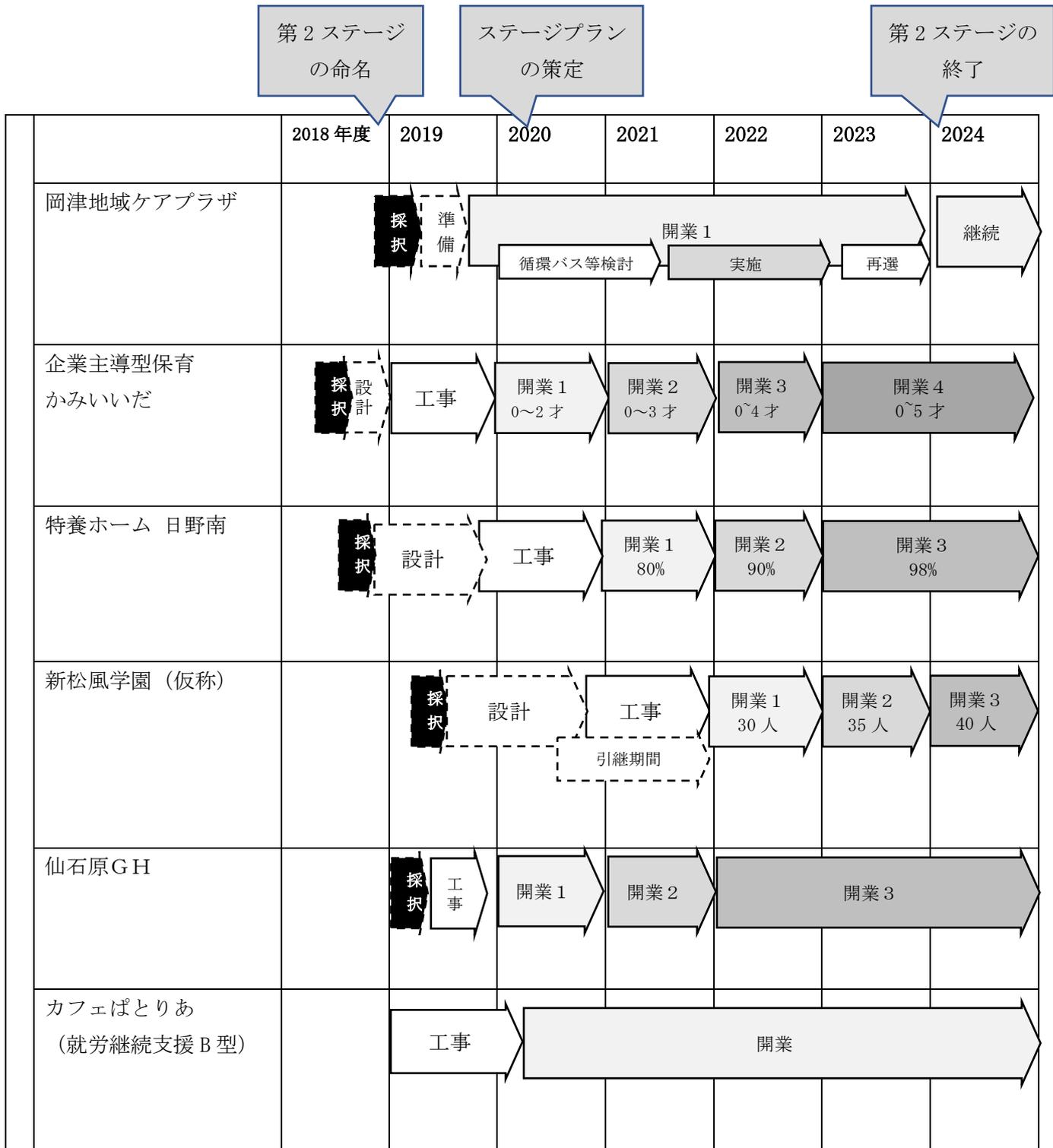
新規施設についても保守を棚上げにするのではなく、建築段階からメンテナンスを考えて、LCC を最小化する計画修繕が重要である。

特に、リフォーム施設の仙石原 GH、集客施設も包含する新ステージビル、ZEB 導入等により高度な設備を有する日野南特養など、それぞれの特徴に対応したマネジメントが必要である。

##### イ 既存施設のマネジメント

法人設立 30 周年が近づき、施設の老朽化が進行する。趣旨に記載の通り、計画的にマネジメントする。とくに、環境対策の視点も重要であり、日進月歩の環境技術に対応し、エネルギー効率の向上にも努めることが必要である。このことは、LCC の低下にもつながる。

## 4 全体スケジュール



- (注)・第2ステージの主要事業は、2018年度から段階的に始まった。(6月28日/日野南特養公募申請がその起点)
- ・複数の事業を踏まえ、第2ステージと命名したのは、2019年1月(理事長新春メッセージ)である。
  - ・そして、第2ステージは質的進化を伴いつつ、徐々にその形を整えていく。
  - ・ステージプランとして体系が確立したのは、2020年(令和2年)6月である。
  - ・第2ステージとしての区切りの時期は、「主要事業が開業し安定期となり最初が開業した岡津地域ケアプラザが第1期を終了する」2023年度と考える。

### Ⅲ 個別事項

#### 1 量的拡大

##### (1) 介護

#### ア 特別養護老人ホーム泉の郷 日野南

(ア) 立地 横浜市は、丘の町でもあります。日野南は、根岸湾の空気を感じる丘陵の地形が特徴です。鎌倉街道沿いの好立地、屋外庭園からは抜群の眺望です。



##### (イ) 特徴

・エントランス 「いってきます」「おかえりなさい」など、挨拶はもちろん、様々な人生を送ってきた方の物語の場でありたいと思っています。ホテルライフを感じられるような洗練された空間を演出します。



※画像はイメージです。

##### ・賑わう地域交流スペース

地域の様々な方が集い、入居者や職員との交流が生まれる。地域 NPO 法人が運営するカフェでは、縁日も開かれ、こども図書館では、子どもの声がひびき合います。また、交流スペースは、大きなお祭りや自治会のイベントにも使えます。



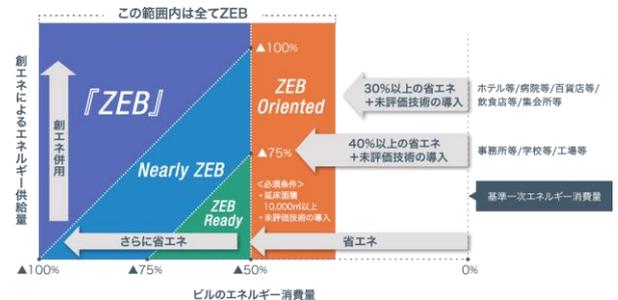
※画像はイメージです。

##### ・地球温暖化対策

横浜市で初の特養での ZEB 建築です。しかも全国に先駆けた、蓄電池併設のレジリエンス強化型 ZEB となります。

①平常時には、省エネかつ太陽光発電で、地球にも自らにもやさしい建物（断熱性が高くより快適で健康に良い建物）になります。

②非常時には、蓄電池を活かして、福祉避難場所としてエネルギーの自立を図ります。



##### ・眺望豊かな屋上庭園

南側には、巨大な緑のカーテンの眺望と、見晴らしの良い屋上には庭園を整備します。高台を活かした広角の眺望を確保するとともに、利用者や職員の憩いの場にもなります。



※画像はイメージです。



##### ・最先端の IT

入居者への見守りシステムなど最新の IT システムを導入し、入居へのサービス向上や、職員が利用者に集中できる、働きやすい環境づくりを進めます

## イ 仙石原グループホーム

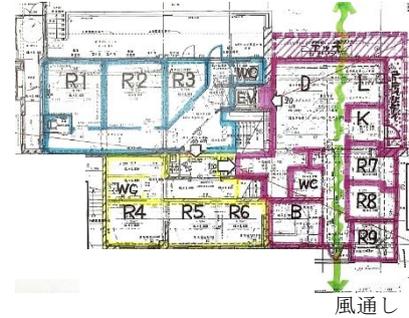
### (ア) 概要

平成15年より1ユニット(9名)で運営してきましたが、地域の利用者さんの更なるQOL向上と施設運営の効率化にむけて、2020年3月に新たに1ユニットを増設しました。

これにより重度者中心の既存ユニットと共に、ADLの高い方まで幅広い利用者の生活ニーズに応えていきます

#### 2ユニット化コンセプト

- ① 既存建築を活かす (空間の豊かさ、イニシャルコストの抑制)
- ② 運営しやすさ (介護の質向上、ランニングコスト抑制)
- ③ 利用者のQOL向上 (様々な生活の楽しみ、健康づくり)



### (イ) 特徴

#### ・旧企業保養施設の建築の魅力



昭和モダニズム、風格あるエントランス



2ユニット目は3層のスキップフロア  
段差を逆手にとり健康づくり・ADL向上



冬の楽しみ。暖炉のある風景



夏の楽しみ。避暑地のバルコニー

#### ・「温泉」付きの施設

少し濁った独特の温泉にいつでも浸ることができます。冬の時期は寒さを吹き飛ばすほど身体の芯まで温まり、疲労回復にも効果があります。



※画像はイメージです。

#### ・職員用の宿舎も完備

遠方から来られる方のために、また、緊急時に備え、設備を改修して職員の住み込み可能な宿舎確保します。



## (2) 障害

### ア 新松風学園 (仮称)

#### (ア) 立地

横浜市泉区上飯田町にある、草花や木々が豊かで、小鳥のさえずりも流れてくるのどかな環境。周辺には、肥えた土地で四季折々の野菜が栽培され、季節を味わうことができます。また、富士山も大きく眺望できます。



#### (イ) 再整備の内容

昭和 30 年代からの歴史のある横浜市松風学園。入居者の日常の散歩姿や、秋の松風祭りでの地域交流など、ノーマライゼーションが自然な形でこの地に根付いてきました。

老朽化により約 100 床の再整備が必要となり、公と民で連携して取り組むこととなり、誠幸会はその民間部分を担い、約 40 床を新築します。



#### (ウ) 理念

地域生活力をアップする地域移行の経過型施設として、人的・施設的に様々なアイデアで取り組んでいきます。また、職員にも寄り添い、やりがいと「成長が実感できる」場所を目指します。

#### (エ) 特徴

##### ・環境配慮

省エネ・再生可能エネルギーの導入など、地球環境に配慮した施設を目指します。これによって、室内気候が安定化し、入居者の安定にとっても有効となります。

あわせて構造形式として、木造建築とし環境面とともに木造の住まいの良さも追求いたします。



##### ・IT 導入

観察・記録業務の負担を省力化するべく、先端的 IT システムで職員を賢くサポートいたします。また、夜勤見守りシステムの導入で、更に安心感をアップ。夜勤スタッフを支える様々な工夫を検討しています。

##### ・総合力の発揮

総合福祉法人として高齢介護で培ったノウハウ・資源（特養、認知症グループホーム、サービス付き高齢者向け住宅等）を活かし、体の衰えた方々の受け皿になるなど、障害者の高齢化にも対応して参ります。

## イ カフェ ぱとりあ（就労継続支援B型）

### （ア）立地

誠幸会本部の近く、環状4号線沿いの新ステージビルの1階にあります。就労支援B型事業所は、これまで美味しいパンの製造販売を行ってきましたが、主となる売り場に恵まれませんでした。そこで、ここを新拠点とするとともに、以下の特徴を持った施設として、これまでの就労支援の新展開を図ります。



### （イ）特長

#### ◎ “誠幸会のおいしい時間”

誠幸会は、従来より”食“を大切にしてきました。法人の誇る”美味しさ“を

時間の流れとともに、提案・発信する拠点です。（参考 食の戦略）

11時頃： パン職人の焼き立てパンが店頭で

ランチタイム： シェフのこだわりランチ

カフェタイム： 手作りスイーツ&ドリンクで、ゆるーく一息

デリタイム： テイクアウトでプロの味を自宅で

パブタイム： 夕暮れ時、デリ・パン・小皿料理で仲間たちとちょっと交流



#### ◎ “まるで明るい森の中のよう”

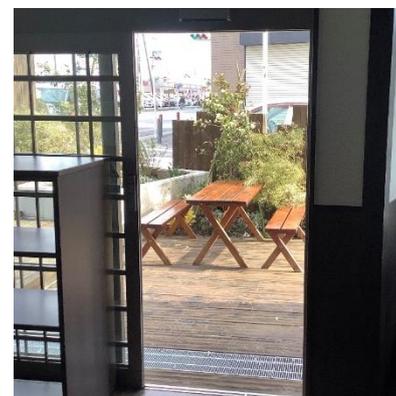
～環状4号沿いは緑が少なく、潤いのない街並み。

一歩中に入れば緑と木の演出。爽やかな森の中。

ナチュラル、ウッディ、グリーンがキーワード

ワイルドな枕木+緑のテラス、通り沿いの列植、観葉植物

スタンドグラス、北欧風ウッディな家具、手作り家具等



#### ◎ “自然”に、優しい気持ちで地域で交流

##### ・地域コミュニティに根付いたカフェ。

➡地域の方々が利用し交流する。:

例、子ども食堂、地域活動、小箱ショップ（趣味の作品発表）

##### ・自然にある“就労B”

障害者福祉を押し付けない、隠さない、自然な形で交流

➡障害者アート：様々な障害者アート、スタンドグラスのキャラ

➡通りにこぼれる花の鉢植え：利用者が鉢の世話

➡働く姿・製品：窓際の製品展示ケース、見せる厨房 等



## ア 企業主導型保育所かみいいだ

### (ア) 趣旨

泉区「第一号」となる企業主導型保育園です。地域や職員の皆さんが勤めるにあたって、特に乳幼児の養育に伴い、職場を離れざるを得ないご家庭の事情もあります。誠幸会は、そのようなことのないよう、地域や職員のためにいつまでも生き生きと働くことができる環境を整備すべく保育園を新設しました。併せて地域の保育ニーズにもこたえていきます。



### (イ) 特長

#### ・保育方針等

一人一人の個性を尊重し、家庭的な雰囲気の中で心身ともにのびのび育つ保育を目指していきます。

#### ・保育環境の充実

企業主導型保育所としては、日本最大級。充実した保育環境です。

定員 38 人 (0 才 3 名、1 歳児 9 名、2 歳児 11 名、3・4・5 歳児各 5 名)

平日：7：00～19：30 土曜日：7：30～18：30



#### ・職員の保育料は無料

職員がいつまでも、生き生きと継続して働くことができるよう、職員の保育料が「無料」となります。(給食費等実費相当負担あり)

#### ・買い物や送り迎えに便利な立地

併設のカフェぱとりあ、近隣の大型のスーパーがあり、待ち合せや買い物にとっても便利です。

直近に送り迎え用の駐車場完備。

#### ・屋上園庭は便利で開放的、長め抜群

遠く丹沢、富士山が望めます。

子供たちが大人になってからも思い出す風景。

#### ・色々な乗り物がこの保育所から見えます。

足元を環状4号線の行きかう自動車、

少し向こうに相鉄いずみ野線、

また空を見上げると飛行機やヘリコプター

乗り物付きの子供には楽しみがいろいろ。



## (4) その他

### ア 岡津地域ケアプラザ

令和元年12月1日に泉区で7館目のケアプラザとして開所しました。閑静な住宅地の中で木のぬくもりが感じられる施設です。



#### (ア) 施設概要

地域の誇りと会話を生む

1 運営ビジョン 主な取り組み

### 地域の伝統文化

①川から丘へ起伏の地形  
～計画開発と里山文化～

②歴史ある街

- 永明寺 (太田道灌)
- 西林寺 (おまんの方)
- 陣屋跡 (名代官 彦坂小刑部)
- 三島神社 (参道と岡津小)
- 大山道
- 明治の製糸業 等

③伝統文化・郷土芸能

地域周辺は、豊かな伝統文化が残る地域であるとともに、昭和から平成にかけての計画的開発で出来たあたらしい街でもあります。

すが、今後計画開発地の特性上、急速に高されます。このことを踏まえた取り組みが

### ●人口世帯の現状・将来

1 運営ビジョン 前提条件

**現状** ・区内でも若い街  
・働き盛りの街

**変化** 子育て・青年・高齢層で、  
大変化が進行

**今後** ・H35年頃、若い街から区平均へ  
・その後、高齢の街へ(区平均以上)  
・この5年は、過渡期

現在の人口構成は、比較的若い街ではありま  
年齢化が進むことが予測  
求められる地区です。

### ●主な取り組み(全体像) 2 P

1 運営ビジョン 主な取り組み

踏まえるべき特性	方向性	主な取り組み
これまでの特性 ・誇るべき町の歴史 ・確かなる地域組織	地域に根差し続ける	継承と発展 ・既存取組の継承 ・新規取組の開発
本件の特性 地縁組織とCP 区域の一致	地域包括ケアの 理想的条件	連合自治会と連携運営
今後の変化の特性 若い街から高齢の街 今は変化に備える時	いまこそ、妙手を ①中川の気風 先を見て、布石を ～地域資源を活かして ②健康インフラ ③交流インフラ ④文化インフラ ⑤情報インフラ 元来の、弱みを ⑥坂の町の移動	変化への確固たる備え ① 課題解決に向け 青少年教育 & シニア活躍 ② コミュニティファーム ③ コミュニティカフェ ④ 地域の伝統文化 ⑤ 地域組織役員等 P C教室 ⑥ 中川地区循環バス

そこで、現在、保育園や小学校から高校までの教育機関がある一  
方、「高齢者の施設」としてのイメージがある地域ケアプラザに、全  
世代に気軽に来てもらう共生型社会の中心としての情報発信や活動  
を行っていきます。

#### (イ) 特徴

地域ケアプラザとして木造建築という特徴があります。木の香りやぬくもりが感じられる温かみのある施設となっています。2階の多目的ホールの窓から見る景色は季節を感じられます。また、ベビーカーの専用置場や授乳室も備わっています。多目的トイレも1階、2階に整備され、小さなお子様から高齢者の方障害のある方までどなたにでもご利用していただける施設です。

## イ 新ステージビル

誠幸会本部に隣接し、郊外部の大動脈、環状4号線に面します。高齢・障害・福祉を総合的に戦略的に展開する総合社会福祉法人は、そう多くはありません。しかも、高齢、障害、保育の3部門が一つのビル内に同居するのは、ユニークな構成です。

総合福祉法人 誠幸会を象徴する施設として船出します。

その名も第2ステージのシンボルとして、“新ステージビルと命名されました。



### 特徴

#### (ア) 保育：泉区発の企業主導型保育所（前述）

- ☛朝は7時～夜は8時
- ☛職員は、保育料は無料！職員の子育てをサポート
- ☛定員：企業主導型保育としては大型！38人  
(地域の保育でお困りの方も入れます)
- ☛3階の園庭は、見晴らし良く、遠く富士山も望めます。
- ☛法人ぐるみ：高齢者や職員との交流も

#### (イ) 高齢；在宅介護ステーション（ケアマネ＋訪問介護＋訪問看護）

- ☛快適な職場で、三位一体の連携プレーで働きやすく、在宅の高齢者の生活を効果的に支えます。  
高齢者を支えつつも、元気な子供たちの声を聴きながらの訪問活動、障害ある人たちが活動する素敵なカフェで、帰りにちょっと一息など、相互交流的な福祉を感じつつのワークスタイルです。

#### (ウ) 障害：障害者就労継続支援B型事業所（前述 カフェぱとりあ）

- ☛食にこだわる法人のブランド発信拠点です。
- ☛あかるい森の中をイメージ。
- ☛地域の方、障害のある方、職員等の交流拠点

## 2 質的進化

### (1) 人材戦略

第2ステージにおいては、2021年4月に開設する港南日野南の特養（約70人）と2022年の新松風（仮称）（約40人）においては、新たに約110人の職員を確保していく必要がある。

このような状況の中で、法人の魅力づくりに取り組み、IT化の推進など職員が働きやすい環境づくりを推進し、人材育成にも重点的に取り組むことにより、今後の離職防止や人材確保に繋げていくこととする。

#### ア 事務の効率化・IT化

現状の各業務システムを再点検し、導入している業務ソフトについては是非も含めて、最適化を図っていく。また、市販ソフトを極力活用し、事務処理の効率化や職員の負担軽減を図り、また環境に配慮したペーパーレス化を目指していく。

#### イ 職場の魅力づくり

全職員へのアンケートをもとに、現在抱える課題を解決していくため、職員によるプロジェクトを立ち上げ、解決策の検討や新たな取り組みなど活発な議論を行い、職員がより働きやすい環境づくりや魅力づくりに努めていく。

#### ウ キャリアパス

各職員の経験や年齢等に応じたキャリアパスや人事考課や評価制度を活用するとともに、各種資格取得の支援や研修等の参加促進を図り、職員自らの成長が実感できるよう取り組んでいく。

#### エ 新規採用

##### (ア) 中途採用

従来のハローワークや求人ナビなど年間を通じての求人広告はもとより、施設の新規開設に伴うオープンスタッフを募集するため、施設周辺への各戸への募集チラシ配布等を積極的に行い、地域からの人材雇用を優先し、地域貢献していく。

##### (イ) 外国人採用

外国人については、EPAや留学生、技能実習、特定技能と様々な雇用形態がある。今後はこれらの制度を大いに活用していき、職場で新たな流れを巻き起こしていく。また、留学生を支援するNPO法人や日本語学校等との関係を築き、採用数を増加していくとともに受け入れ体制も併せて構築していく。

##### (ウ) 新採用

高等学校、専門学校、大学等との関係をより築いていくために、合同就職説明会などに参加し、1年後を見据えた新人採用獲得を目指していく。

##### (エ) 介護補助員の活用

専門的な知識をフルに生かしていくためには、シニア層などによる短時間のパートを活用して、直接介護でない業務を分担することにより、介護職がより専門的なサービスに特化して提供できるように充実していく。

### ア 趣旨

福祉業界においては、人材不足を背景として、様々な IT や AI、介護ロボットなどの開発が活発に行われている。法人としても業務の効率化を図るとともに、負担の少ない魅力ある職場としても IT 化等の先端技術の取入れは不可欠である。

特に第 2 ステージで新規開設していく施設においては、最先端の IT 化を図るチャンスと捉え、利用者へのサービス向上や職員への負担軽減、施設の魅力づくりに取り組んでいくこととする。

### イ 具体的な取り組み

#### (ア) 内部業務の IT 化(2021 年 4 月～)

既に活用できているシステムを最大限活用しつつ、全体の構想を描きつつ、既存の介護システムや給付請求システムなども検証していく。特に現場の職員とのコンセンサスを得ることが大切であり、各所属の IT 担当 I などを明確化するなどして推進していく。

また、既存システムについても、不具合や柔軟性などを検証し、計画更新時期等を取らえて、入れ替える必要があるものは新規に入れ替えていく。特に導入にあたっては、次の点に留意していく。

- ・導入時でのコスト比較
- ・システムの汎用性
- ・立ち上げデータの移行業務量
- ・その後の管理運営費
- ・既存システムの契約期限

#### (イ) 外部向け WEB(2020 年 4 月～)

##### ① HP の更新

今後、採用者や利用者様の確保のツールとして、HP は IT 化が進むにつれて益々重要になっていく。HP の更新にあたっては、第 2 ステージの取り組み内容を色濃く打ち出して新卒採用者の確保やご利用者からの視点を打ち出していく。特に、第 2 ステージの中では新規施設の量的拡充のみならず、質的進化としての戦略として、人材戦略を筆頭に環境戦略や健康戦略など 5 つの取組をしっかりと伝えていく。

また、採用ページにおいては、募集データの迅速な検索やターゲットに見合った適切な情報発信を図っていく。HP を訪れた方々にインパクトのある、興味をそそる言葉や写真で引き付けるデザインやワードも選択しながら構築していく。

##### ② スマートフォン対応や HP のアクセス分析

今やスマホで HP の職員募集を見ることが多くなっている中で、スマホでも見やすくわかりやすい画面としていくとともに、HP へ誘導する SNS も活用していく。また、HP の更新後、サイトを見た人たちの分析を行い、興味を持った人たちが、採用応募に繋がる仕組みや効果的な広告等を検討実施していく。

### (3) 健康戦略

健康づくりの担当(泉の郷訪問看護ステーション)が中心となって、既に令和元年6月から、全職員に健康プロジェクトだよりを発行し、元年度の全体会議で説明・健康について講演するなど職員への健康管理について、メッセージを届けている。

法人としても定年制はあるものの、その後の再就職は、ご自身の健康状態等に応じていつまでも勤めることができる制度となっていることも含め、いつまでも健康で働くことのできる職員を目指して、今後も健康増進を重視し、その実現を図っていく。

○参考 これまでの健康診断結果

項目	平成28年度	平成29年	平成30年	令和元年
再検査・要治療人数	127人	139人	149人	166人

※再検査・要治療人数 脂質・高血圧・糖尿・レントゲンで重複含む

#### イ 取組方針

(ア) 健康診断・ストレスチェックの結果を活用して、課題把握と必要な対策の検討・実施を図る。

特にこの5年間は再検査や要治療になりやすい様々な合併症をもたらす肥満予防を推進する。

(イ) 全職員への取組として健康宣言を発信していき、成人病予防等の普及啓発に努める。

(ウ) これらの取組としての数値目標は、30年度BMI 25未満の率は80.2%であり、

今後5年間でBMI25未満の率を全職員の85%以上を目指していく。

※BMI 肥満度 (体重 Kg)/(身長 m)<sup>2</sup> 18.5～25未満が標準

#### ウ 健康宣言

い・・・今から禁煙  
 ず・・・ずっと減塩  
 み・・・みんなで体操  
 の・・・のんびり休養  
 さ・・・酒はほどほど  
 と・・・糖分控えめ

#### エ 今後の取組

(ア) 職員への啓発

毎年行っている健康診断やストレスチェックの結果公表や、健康プロジェクトだよりなどにより、職員が健康意識をもって、健康に留意した生活を送れるよう啓発していく。

また、歩数計などアプリを活用するなどして、自分で日頃から運動量や血圧など計測していく習慣づくりを推進する。

(イ) 法人の取組PR

取組については、職員のみならず、対外的にも広くPRしていく。

また、神奈川県においては、「CHO 構想推進事業所登録事業」、横浜市においては、「横浜健康経営認証」制度を設けており、今後取り組み内容を申請し、認証を取得し、PRの一助としていく。

## (4) 食の戦略

### ア 趣旨

誠幸会はこれまで食を大事にしてきた。そこで、経営戦略の柱の一つとしてステージプランに位置付ける。

### イ 食の戦略の目標

- ① 顧客満足：食は極めて重要な要素（日々の食事満足度、食事レクの企画力、健康づくり等）
- ② 職員満足：「安く美味しいサラメシ」はアピールポイント
- ③ 法人経営：適切な原価管理等により安定的な利益確保

### ウ 食を巡る経営課題の確認

- ① 厨房も慢性的人材不足
- ② HACCAP 強化による衛生管理（2021～）
- ③ 合理的原価管理による利益確保

### エ 取り組み方針

上記は業界共通の悩み。➡多様な厨房システムが進化  
誠幸会としては

- ・自慢の「直営・手作り」の維持・発展
- ・分野別に効果的な厨房システムの導入検討

### オ 主要プロジェクト

上記取り組み方針に基づいて、先導的プロジェクトを推進する。

- |                        |   |
|------------------------|---|
| (1) 現状向上1：本部の食（手作り）    | ・引続き、自慢の手作りに磨きをかける。<br>本部周辺施設の手作りをマネジメントしていく。   |
| (2) 現状向上2：カフェぱとりあ（手作り） | ・誠幸会の“美味しい”の発信の場。   |
| (3) 新規挑戦：新松風学園（仮称）     | ・経営課題に対応する新方式の導入（検討中）   |
| (4) 課題改善：綾瀬サ高住のメニュー改善  | ・プレクック方式のメニュー多様性・技術向上を評価<br>～試食会等、厳正な選考を経て決定～<br><small>（多彩なメニュー、イベント食、デザート充実、栄養・減塩等）</small> |

### カ 食の戦略推進体制

- (1) 食の戦略/推進会議（仮称）を置く
  - ・食の戦略/取組方針の決定、進行管理
  - ・主要プロジェクト等の総合調整
- (2) 料理責任者（総料理長）等の役割等を明確化

## (5) 環境戦略

- ・地球温暖化はますます進行し、その対策は個人・法人ともに待ったなしである。
- ・介護等に係る社会福祉法人等は、その性格上エネルギー多消費型である。  
しかも、超高齢化により今後爆発的に増加。福祉は温暖化対策の重要な分野である。
- ・福祉業界では日々の課題に追われ、温暖化対策まで手が回らない。福祉業界でも大手株式会社はCSRとして環境貢献を掲げるが、社福法人は手付かず。(本来、社福法人は環境面でも社会貢献が望まれる)
- ・誠幸会は、従来から省エネ等に取り組んできたが、これを一層発展させ環境戦略としてまとめる。

### イ 意義・効果

環境対策への取り組みは、多面的な効果を有する。

- ・エネルギー多消費産業として、環境対策で福祉業界をリードする。
- ・社会的弱者（高齢者、障害者、子供）が閉じこもらず、社会との関わりを持つことは重要である。施設の環境対策をアピールし利用者も地球温暖化に関心を持ち、さらに地域社会で発信できれば有意義となる。
- ・中長期的経営安定にとって、今後のトレンド（①エネルギーコスト上昇②介護保険等先細り 等）を踏まえ、効果的な環境投資は有効な経営手段である（ただし投資回収は慎重な判断を要す）。
- ・社会的責任を果たし法人価値を向上を図る。今後激化する採用市場・顧客市場で他社と差別化できる。

### ウ 具体の取組

	省エネ	再エネ	ライフスタイル
本部ビル	<ul style="list-style-type: none"> <li>・LED化⇒第2期LED化</li> <li>・窓断熱化⇒更なる窓断熱</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・PV（自己使用型）</li> <li>・地下水利用</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地産地消&amp;食品ロス減らし</li> <li>・照明の抑制等</li> <li>・皆で考え環境憲章等として行動を ～他でも同様の取組～</li> </ul>
新特養	<ul style="list-style-type: none"> <li>⇒ZEB導入申請（市内初）</li> <li>・外断熱、高効率熱源機、BEMS</li> <li>・2重サッシ（→室内気候安定で健康維持）</li> <li>・PV（自己使用型）、蓄電池</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>⇒地産地消&amp;食品ロス減らし</li> <li>⇒蓄電池により、非常時にも自立</li> <li>⇒照明の抑制等 ～陰影を活かした内装設計</li> </ul>
新松風学園 ：障害者 入所施設	<ul style="list-style-type: none"> <li>⇒環境性能の向上</li> <li>・外断熱、高効率熱源機、BEMS</li> <li>・2重サッシ→室内気候安定で健康維持、騒音対策</li> <li>・PV（自己使用型）等</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>⇒食品ロス減らし</li> <li>⇒照明の抑制等 ～障害者支援を踏まえた照明計画</li> </ul>
仙石原GH	<ul style="list-style-type: none"> <li>⇒高効率熱源機（EHP）、暖炉</li> <li>⇒LED、窓の断熱</li> </ul>	PVは困難（自然公園法、投資回収上）	
今後の各改修施設	<ul style="list-style-type: none"> <li>⇒改修時、高効率熱源機へ交換検討 （キュービクル次第でEHP導入等）</li> <li>⇒LED、窓の断熱等検討</li> </ul>	⇒屋根改修と併せたPV検討	

部門	既存事業の評価		第二ステージ	
	強み	弱み	新規事業展開	既存事業高度化
介護部門	<b>拒まない（お客様を）</b> ・デイは上階から降りられない人 ・特養；入院レベルの人 ・介護予防：将来ともお付き合い（CP包括の取組） ・看取り	<b>人材不足</b> ・特養：ケアの質の低下 ・在宅：事業拡大できず ・GH：契約社員多数で採算悪化、営業後20年近く経過し改修時期 ・住宅部門：サ高住経営の苦戦	<b>新特養（横浜を代表する特養に）</b> ・高稼働率の実現（市場変化等の克服） ・共生社会（地域交流スペースの仕掛け） ・ユニットケアの充実と評価獲得 ・高齢障害者を受け入れ⇒シナジーモデル ・IT導入（記録システム、見守りシステム）	<b>既存特養・ケアハウス</b> ・高稼働率の維持（⇒市場の変化への対応） ・新特養での導入と連動し、T導入
	<b>高稼働率（特養、GHとも）</b> ・空床型短期入所、営業力（CP経験者）		<b>認知症GH・サ高住</b> ・新ステージビルオープン ・岡津ケアプラザ開業⇒中川方面への浸透	<b>認知症GH</b> ・仙石原GH2ユニット化 ・各GHの設備更新の検討 ・新松風学園（仮称）から地域移行の受け皿検討 <b>サ高住綾瀬の経営改善</b> ・食の改善、経営改善等
障がい部門	<b>一応メニュー有り</b> （計画相談、GH、日中活動、在宅） ■中軽度者中心の事業モデル ～少スタッフで大管理スパン	<b>メニューあるが不完全、事業モデルが時代不適合に</b>	<b>民間松風</b> ⇒重度者支援にも展開 <b>停滞気味の就労Bを活性化</b> ⇒中軽度者支援も充実化	それぞれ深化&シナジー
		・計画相談（一人体制の不効率）		・計画相談（一人体制の不効率解消）
		・GH（中軽度者モデルの難しさ） ～入居不安定、少スタッフで支援員の孤独 ～制度も重度化シフト		・GH：松風の地域移行に備える。 ・重度者受入モデルの導入。
		・日中施設が少ない（生活介護がない） ⇒GHを埋めづらい	・生活介護事業所の確保（松風+通所）	
		・就労Bは、パンの訪問型販売に終始。 ⇒仕事の開発と利用者拡充は進まず。	・カフェばとりあ（就労B）の開業	・非効率販売の見直し。 ・魅力的な職場、工賃UP（利用者拡大）
		・在宅：意識不足、スキル不足、育成不足等		
		・IT導入の遅れ（多くの記録作成等が現場の負担）		・新松風学園（仮称）は、記録と見守りシステムの先行導入 ・就労B・GH等は、記録システムの先行導入
		人材不足	・高齢と障害の両方に精通した人材が必要	
保育部門	<b>駅に近い地の利</b> <b>認可保育園の安定感</b> 保育理念は「明るく健やかに」	<b>人材不足</b> ・オーソドックスな理念。 ・正規とパート職員との人間関係	<b>企業主導型保育園</b> ・初めて自分たちで入園児募集 ・人材獲得の切り札として戦略活用 ・特養とシナジー戦略（例、砂場遊び）	
		岡津CPはデイ無しCP	・岡津ケアプラザ開業	単独では収益力に乏しいCPを踏まえた戦略 ⇒今後急速な高齢化が進む中川方面の在宅ケア需要に答える
ケアプラザ	既存2館は、デイサービス付で収益力有り	岡津CPはデイ無しCP	・岡津ケアプラザ開業	単独では収益力に乏しいCPを踏まえた戦略 ⇒今後急速な高齢化が進む中川方面の在宅ケア需要に答える

総合福祉法人としての強みを発揮するため、部門間のシナジー効果（相乗効果）を追求することは重要である。又、高齢者、障害者、子供、など様々な人が支え合う地域共生社会を構築していく上でも、部門間連携の必要は高い。

例えば、

① 保育と高齢のシナジー

保育所の子供たちが本部（特養、ケアハウス等）のイベントに参加し、高齢者と交流する。

② 高齢と障害のシナジー

障害者の高齢化により、現在の住まい（障害者支援施設、障害者 GH 等）から、特養ホーム等への住み替え

③ 障害と保育のシナジー

障害者就労支援事業所のパンを、保育所の夕方のお迎え時に出張販売する「お帰りパン屋さん」

④ 共生型社会の交流拠点

地域ケアプラザ、日野南特養地域交流スペース、カフェぱとりあ等は、共生社会の交流拠点として高齢・障害・保育など様々な人が交流する。

⑤ シナジーのシンボル

新ステージビルは、高齢・障害・保育の3部門シナジーのシンボリック施設でもある。

上記のようなシナジー効果をこれからも生み出していくには、各部門が縦割りにならず、横つながりのマネジメントが必要となる。

## IV リスク想定（追記）

本ステージプラン取りまとめ作業と並行して、今回のパンデミックス（新型コロナウイルス感染蔓延）が顕在化してきた。

もとより、前文「ステージプランの必要性と全体像」で、「リスクの想定」として大災害リスクを位置付けている（パンデミックは大災害の一つ）。この「リスクの想定」に記載した多様なリスクについて、改めて我が事として考えておく必要性が実感された。

そこで、以下の通り、主なリスクについて追記することとした。

### （1）人材難リスク

福祉を巡る人材難は、今後ますます厳しくなると思われる。誠幸会が量的拡大に取り組む以上、なおさらである。

そこで、前述の「人材戦略」等の「質的進化」の各取り組みにより、リスク回避に未然に取り組む。

また、今回のパンデミックに伴う雇用情勢の変化は、一時的か構造的かを注視しながら、的確な取り組みが必要である。

### （2）プロジェクトリスク

量的拡大による各新規事業は、法人経営に大きな影響を及ぼす。新規事業に取り組む以上、常にリスクが潜んでいる。このため、法人全体の財務管理とともに、事業ごとのプロジェクトマネジメントが必要になる。

これは、事業が安定化の以前、すなわち事業の初期段階（企画・設計・建設・運用開始時等）でのマネジメントである。具体的には

- ① 社会福祉法人の事業の目的・品質を確保するとともに、
- ② 初期コスト抑制（建設投資抑制、補助金の最大化、等）
- ③ 安定期の収益力（提供サービスの競争力、給付加算の最大化等）
- ④ 安定期の人件費・維持管理費抑制（エネルギー・維持費等）

### （3）財務リスク

誠幸会は、現在安定した財務基盤があり、平均的社福法人の経営状況より優れた数値となっている。

- ① 毎年の事業計画・予算達成のマネジメントが整備され、毎年事業計画・予算は概ね達成されてきた。

この結果、事業規模・財政規模とも順調に拡大してきた。

- ② また、財務も安定性が高い（参考 平成 28 年 WAMNET データ）

- ・流動資産（現預金等）10 数億円
- ・総資産比率 87.7% >73.7%（社福平均）
- ・流動比率 537.5% >324.5%（同上）

一方、今回のパンデミックにおける観光・旅行・外食業界のように、需要が蒸発しても固定費は変わらないのしかかることもある。社会福祉事業は社会の基盤として事業存続が求められる。

よって、複数の新規事業を手掛ける中でも、一定水準のキャッシュを確保した財務運営が必要である。

今後は、その一定水準を見定めるつつ、短期・中長期の財務管理が必要である。

## (4) 介護保険等リスク

超高齢化の進展により介護保険益々膨張していく。しかし、制度の持続のため負担と給付の観点から絶え間ない制度改定が予測される。介護分野では、介護保険制度の将来展望（例 地域包括ケア・在宅重視、中重度者重視等）を見通した事業戦略が必要である。

また、総合福祉法人の強みを生かして、第2ステージでは障害福祉サービス事業、保育事業にもバランスよく事業展開することとしており、この結果リスク分散ができる。

## (1) 大災害リスク

人間社会の外側からの災害として、誠幸会として考えるべき主なものとしては、

### ◎大地震、風水害等

これらは従来からリスク想定され、法人としての対応マニュアル類も概ね整備されている。

これをもとに、徹底を図っていく必要がある。

### ◎パンデミック

10年ほど前の新型インフルエンザで対応の検討はされたが、十分なものとはなっていない。したがって、今回は、手探りで対応となった。

今回の対応と経験をもとに、パンデミック対応について真剣に考える必要がある。

#### ① 基本認識

今回のパンデミックは、スペイン風邪から起算して100年に一度のパンデミックともいわれる。一方、ここ10年程度に、SARS、MARS、エボラ出血熱等も世界各地で発生している。強毒性のHIN5鳥インフルエンザなど、いつ大流行が始まってもおかしくないとの説もある。今回の新型コロナウイルス以上のパンデミックにも備える必要がある。

#### ② 予防対策

##### ア ソフト対策

通常の季節性感染症（インフルエンザ、ノロウイルス等）への対応は、誠幸会はこれまでの経験から充実したものとなっている。パンデミック時も感染経路として、接触感染・飛沫感染・空気感染等であり基本的に通常対策の徹底での対応となる。これを契機に、一層の対応力強化に取り組む必要がある。

##### イ ハード対策

社会福祉施設として、社会的・肉体的に弱者の介護等を行う性格上、適切なハード対策が必要である。すなわち、新規・既存を問わず各施設で、感染予防のポイントとなる箇所（換気設備、動線分離、便所、厨房等）に十分な配慮が必要である。